



| | |
|--------------|---|
| Title | 癌と人 第27号 目次 |
| Author(s) | |
| Citation | 癌と人. 2000, 27 |
| Version Type | VoR |
| URL | https://hdl.handle.net/11094/23780 |
| rights | |
| Note | |

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

◎ 題 字 ◎

財団法人 大阪癌研究会
理事長 千代 賢治



* 表紙絵解説

「蟹」のいわれ

蟹の絵は川俣順一大阪大学名誉教授にお願いして描いてもらったものである。

癌に関係ある学会のシンボルマークに蟹の図案化したものがよく用いられている。

癌と蟹の関係の歴史は遠くギリシャ時代にさかのぼる。ギリシャの医聖ヒポクラテス著述のところどころに、今日私どもがいう癌と思われる記録がある。ヒポクラテスはそれを「カルキノス」と呼んでいる。カルキノスというのは日常一般に用いられていた言葉で、蟹のことである。ヒポクラテスが記述しているという病気（癌）の格好が蟹に似ていたのでそれを呼び名とした。

今日、欧米では日本でいう癌をカルチノーマと呼んでいる。それはカルキノスと言葉からきたもので、両者は同義語である。

ヒポクラテスはカルキノス（蟹）という日常語を純然たる医学語とした人である。癌と蟹の関係はそれ以来続いている。

第27号 目次

| | |
|--|----|
| • ごあいさつ | 1 |
| 千代 賢治 | |
| • 生きることの自由と医療における自由 —自分で決定する、自分の医療— | 2 |
| 田口 鐵男 | |
| • 妊娠反応は男性には絶対に出現しないのか？ | 5 |
| 松本 圭史 | |
| • 肝炎・肝硬変・肝ガン | 7 |
| 古江 尚 | |
| • 検診による大腸がんの早期発見 —その現状、問題点と限界克服の試み— | 10 |
| 藤田 昌英 | |
| • 胃がんと性 | 13 |
| 岩永 剛 | |
| • 癌と闘う | 17 |
| 小塚 隆弘 | |
| • 癌ってどんな病気？ —癌細胞の誕生・臨床症状の出現・診断— | 20 |
| 高井 新一郎 | |
| • 子宮頸癌の発生についての最近の考え方 —子宮頸癌とヒトパピローマウイルス— | 23 |
| 奥平 吉雄 | |
| • 遺伝子性乳癌の遺伝子診断 | 26 |
| 野口 真三郎 | |
| • 癌の画像診断——CTの進歩 | 28 |
| 中村 仁信 | |
| • 大腸がん検診の盲点 —便秘が潜血検査の感度を下げる— | 30 |
| 阪本 康夫 | |
| • 細胞がん化とアポトーシス | 32 |
| 湯通堂 満寿男 | |
| • PCRを用いたびまん性大細胞型リンパ腫における 3q27転座の分子診断 | 33 |
| 守山 正胤 | |
| • 癌抑制遺伝子p16の外部導入による悪性脳腫瘍の 形質変化 | 35 |
| 佐和 弘基 | |
| • 悪性リンパ腫と遺伝子 | 36 |
| 赤坂 尚司 | |
| • サイトカインシグナル伝達系の研究 | 38 |
| 松田 正 | |
| • 腺癌細胞の増殖と浸潤を促進する ホスホリバーゼA ₂ | 39 |
| 杉山 政則 | |
| • 一基礎医学研究者の研究歴 | 40 |
| 伊藤 浩史 | |
| • ネガティブデータの山から | 42 |
| 仙道 富士郎 | |
| • 「新しい細胞の生存シグナル」 | 43 |
| 阪口 薫雄 | |
| • がんの薬剤耐性に関与する新しい分子標的 | 45 |
| 和田 守正 | |
| • 乳癌と子宮内膜癌における性ステロイド代謝の 新しい展開 | 46 |
| 笛野 公伸 | |
| • 平成10年度事業報告 | 48 |
| 大阪癌研究会 | |
| • 平成11年度収支予算書 | 50 |
| • 平成10年度収支計算書等 | 51 |
| • 平成11年度事業計画書 | 55 |
| • 平成11年度寄附者御芳名 | 56 |
| • 財団法人大阪癌研究会寄附行為 | 65 |
| • (財)大阪癌研究会役員・評議員・賛助会員名簿 | 68 |